

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870902489		
法人名	医療法人社団 健癒会		
事業所名	グループホーム ふれあいの家		
所在地	〒651-1423 兵庫県西宮市山口町船坂下ヶ平柏木谷1825-3		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	令和5年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりの利用者様の状態、生活スタイル、嗜好等を把握し、ゆったりと落ち着いた雰囲気与生活していただけるような支援を心がけ、馴染みの関係を築いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた静かな環境にあり、玄関ロビーを挟んだユニット間を自由に行き来ができる広い生活空間で、利用者が自分のペースでゆったり過ごせるよう個別支援に取り組んでいる。コロナ禍で活動に制限があるが、季節料理・国内の郷土料理・外国の料理を献立に取り入れ、プランターで収穫した野菜を活用し、利用者も可能な作業に参加する等、食事が楽しめる機会作りに努めている。市内の協力医療機関からの往診と併設施設内の看護師との連携により、日常の健康管理と体調変化時の早期発見・早期対応できる体制があり、入退院時の連携も密にとられている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年2月8日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議にて共有し、実践できるよう心掛けています。	事業所独自の理念と基本方針を作成し、基本方針に地域密着型サービスの意義を表明している。玄関ロビーに掲示し、共有を図っている。介護計画に役割づくりや自立支援を取り入れ、理念の実践に向け取り組んでいる。新年度に理念・基本方針にもとづいた年間目標を設定し、方向性を統一して実践につなげる予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦となり、なかなか地域とのつながりが持ちにくい状況となり、閉鎖的となりがちであるため、今後の課題となっている。	コロナ禍のため通常の地域交流・地域貢献が困難な状況であるが、施設として地域からの介護相談への対応を継続している。コロナ禍終息後には、地域交流・地域貢献を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は活かせていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	たくさんの意見をいただき、前向きなサービス提供に努めています。	コロナ禍のため書面開催とし、2ヶ月に1回、全家族・市の権利擁護支援員・知見者(他事業所管理者)に議事録を郵送し、入居者概要、ヒアリハット・インシデント、活動、感染対策、今後の検討課題等を報告している。コメント用紙を同封し、返信された意見等を職員にも回覧し、サービスに反映できるよう取り組んでいる。	地域代表も構成委員とし、議事録等を郵送することが望まれます。返信された意見等を次回の議事録で共有し、書面開催でも意見・情報交換できるようにされてはどうか。議事録は、玄関ロビーにファイルを設置する等により、公開することが望まれます。

グループホーム ふれあいの家

自己 評価	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいます。事故報告等も迅速に行っています。	運営推進会議に市が派遣する権利擁護支援員の参加があり、連携している。市からのコロナ関連情報を事業所の感染対策に活用し、必要な報告は適宜行っている。疑問や相談があれば電話やメールで随時間い合わせ、指導や助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないケアをしています。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。年間研修計画をもとに、「身体抑制排除・高齢者虐待防止研修」「身体抑制排除研修」を実施している。施設合同で月1回「身体抑制廃止推進委員会」を開催し、スピーチロックや不適切ケア防止に向けて取り組んでいる。ユニット間の行き来を自由に行い、玄関前スペースでの外気浴や敷地内の散歩を日課とし、利用者が閉塞感を感じないように努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めています。	年間研修計画をもとに、「身体抑制排除・高齢者虐待防止研修」を実施している。「身体抑制廃止推進委員会」の中で、虐待防止についても検討している。気になる言葉かけや対応があれば申し送り等で共有し、お互いに注意喚起できる関係作りに努めている。また、相談しやすく協力し合える職場環境作りに努め、職員のストレスや不安がケアに影響しないよう取り組んでいる。施設としても、ストレスチェックの実施、相談窓口の設置等を行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修等の受講を促しており、可能な限り情報共有に努めています。	成年後見制度を利用している利用者について、管理者・介護支援専門員が中心になり、後見人と連携して制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が窓口となり施設や関係機関と連携して支援する仕組みがある。	成年後見制度など権利擁護に関する制度について、職員が学ぶ機会作りが望まれます。

グループホーム ふれあいの家

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている。	入居希望があれば管理者が対応し、見学や「サービス利用案内」(パンフレット)で、サービス内容や料金等を説明している。契約時には、「サービス利用契約書」(契約書・重要事項説明書・指針・同意書含む)を用いて説明し、文書で同意を得ている。特に、受診対応や重度化・終末期対応については詳細に説明している。契約内容の改定時には、改定部分を文書で説明し文書で同意を得てる。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、利用者や家族等からの意見を反映できるよう努めています。	コロナ禍のため、電話連絡時やオンライン面会、家族の来訪時に近況を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月、写真を掲載した「ふれあい通信」と利用者個々の写真を郵送し、利用者の様子を伝えられるよう努めてる。2ヶ月に1回、運営推進会議の議事録を郵送して事業所の状況や活動を伝えている。コメント用紙を同封し、家族の意見等を聞く機会として活用している。面会に関する意見・要望が多く、面会再開に向け、時期や方法を検討している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行っており、今後も行っていく予定です。	基本的には月1回(感染状況に応じて不定期に)職員会議を行い、利用者支援や業務について検討し、議事録の回覧により共有を図っている。管理者が定期的には年1回、必要時は随時に個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。日々の検討事項があれば管理者や介護支援専門員が集約し、システムの「申し送り事項」や申し送りノートで共有しながら、職員の意見を反映している。	職員会議や委員会の議事録、研修実施記録のファイリングを整備し、実施状況や周知状況が明確になる工夫が望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員満足度の向上を目的に、役職者クラスでの会議を毎月開催し、ハード面やソフト面でのサポートを検討しています。		

グループホーム ふれあいの家

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での研修(オンライン、オフライン)を活用するほか、外部の研修などは職員掲示板にて周知し、受講の機会を設けています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人本部やグループ本部の職員が定期的に来訪し、利用者様の様子や職員の声を聞く機会を設けています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、不安材料をできるだけ取り除けるよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期段階では、こまめにご様子をお伝えし、利用者・家族様ともに不安にならないよう努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントにて見極めを行い、入居後もこまめに確認しながら進めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り利用者様にできることはしていただき、そのサポートを職員が行う形をとり、利用者様・職員ともに共同で暮らしを営むことを周知しています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何ごとにおいても家族様への連絡は怠らず情報共有し、ともに支援方法を考えるパートナーと考えています。		

グループホーム ふれあいの家

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めています。居室を変更する際は、慎重に行います。	コロナ禍のため、馴染みの人(家族・地域の知人・デイケア利用者等)との交流、馴染みの場所(自宅・馴染みの店舗・墓参り等)への家族との外出を休止している。現在は、電話・オンライン面会・手紙や年賀状等で、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が目配り気配りしながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設のデイケアや老健、ショートステイなどと連携し、必要に応じて支援ができるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成するにあたり、最も重要視しております。	入居時は、入居前のサービス事業所からの情報・「面談記録票」・「心身状況について」等をもとに、利用者個々の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。日々のコミュニケーションの中で職員が把握した内容は基本的には職員会議の中で共有し、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が難しい場合は、家族からの意見や情報、表情や反応等から把握に努めている。	利用者個々の生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等を記録し、新しい情報を追記しながら、職員間の情報共有と個別支援に活用できる書式の工夫を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて把握を行い、全職員に情報共有しています。		

グループホーム ふれあいの家

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に行えています。	入居前のサービス事業所からの情報・「面談記録票」・「心身状況について」等をもとに初回の介護計画を作成している。各ユニットに介護計画のファイルを設置し、職員に計画内容の周知を図っている。日々のサービスの実施状況は、介護システム内の介護記録に入力している。必要時には随時、定期的には3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画の見直し時には、「評価票」でのモニタリング・「ケアチェック表」での再アセスメント・サービス担当者会議を行っている。電話等で確認した家族の意向や必要時には主治医の意見を反映し、次回の介護計画を作成している。	介護システムの種別欄を活用する等、介護計画にもとづいた記録が明確になる工夫が望まれます。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を丁寧に記入し、しっかりと情報共有できるよう努めています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援ができるよう、法人全体で取り組んでいます。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦前は、施設内での行事に地域の方々をお呼びし、ご参加いただいていたが、現在はできておらず、代替案を模索しています。		

グループホーム ふれあいの家

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>2023年1月よりかかりつけ医が変更となり、今までの受診するスタイルから往診のスタイルへと変わったことから、施設内のハード面を含めてご指導いただけるよう努めています。</p>	<p>契約時に医療体制について説明し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。協力医療機関による内科の往診を月1回、訪問歯科を週1回受けられる体制がある。他科の受診、入居以前のかかりつけ医を継続する場合は、家族の通院同行を基本としている。往診については個人ファイルのカルテ（診療録）とシステム内の介護記録に記録している。通院についてはシステム内の介護記録に記録している。特記事項は「申し送り事項」で職員間で共有している。併設施設内の看護師と連携し、健康管理や適宜相談等を行っている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員が常駐していないため、併設老健の看護職員に適宜相談を行っています。</p>		
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退所時や入退院時には情報連携に努めています。</p>	<p>協力医療機関に入院する事例が多く、往診等により日頃から情報共有ができています。入院時には、介護サマリーでも情報提供している。入院中の情報交換や退院前の調整を電話や往診時に主治医と行い、早期退院に向け連携している。職員間は「申し送り事項」で情報共有し、退院前には看護サマリーの提供を受け、退院に備えている。退院後も、往診時に主治医による状態観察や指示を受けられる体制がある。</p>	
33	(16)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にご意向を確認するほか、時期が近付いてきた際には、改めて意向を確認するよう努めています。</p>	<p>重度化・終末期に向けた事業所の方針を、契約時に「医療連携体制加算の算定に係る誓約書」「看取りに関する指針」で説明し、同意書で同意を得ている。重度化を迎えた段階で、管理者が状況と事業所で出来ること・出来ないことを説明し、家族の意向を確認し、意向に沿った支援を行っている。看取り介護の事例はない。</p>	

グループホーム ふれあいの家

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での研修を通じて行っていますが、不十分な点も多いことから、今後の課題となっています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等も定期的に行い、万が一の対応をしていますが、今後も継続的に行わなければならないと感じています。	通常は、施設合同で昼間・夜間想定 of 総合訓練を年2回、1回は消防の立ち会いがあり、利用者も参加して実施している。令和4年度は9月に書面での消防訓練研修を行い、避難経路確認・消火訓練確認を実施し、報告書が作成されている。備蓄は施設合同で整備し、管理栄養士が管理して厨房内に備蓄している。	コロナ禍終息後は、通常の避難訓練と防災訓練を再開し、訓練に参加できなかった職員にも周知する方法を工夫することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接遇はしっかりと行うよう、職員同士が声を掛け合いながら行っています。	身体抑制排除・高齢者虐待防止・認知症ケアに関する研修、身体抑制廃止推進委員会等により、人格尊重と誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について意識向上に取り組んでいる。日々の業務の中でも、職員同士が声を掛け合いながら不適切ケアの防止に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、自己決定をできるよう心掛けています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「施設はご利用者様の自宅である」という認識のもと、利用者様のペースで生活できるよう職員に周知していますが、今後も課題となる部分です。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています。		

グループホーム ふれあいの家

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ渦となり、食事を通じた支援の機会が減少しているため、代替案を模索しています。	厨房で調理された食事を提供し、各ユニットで炊飯・汁物調理・盛り付けを行っている。ソフト食・高カロリー食には厨房が対応し、各ユニットでもその他の食事形態への対応を行っている、献立に、週1回程度、季節料理・国内の郷土料理・外国の料理の献立があり、ユニット内に写真と説明の入った案内を掲示し、食事が楽しめる機会作りに努めている。月1回給食委員会を実施し、利用者の摂食状況や意見を献立や調理方法に反映できるよう取り組んでいる。利用者が米をといだり、汁物の具材を切る等に参加できるよう支援している。玄関前のプランターで収穫した野菜を食材として使い、利用者が季節感や楽しみを感じられるよう支援している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援をしていますが、更なる努力も必要であると感じています。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、トイレでの排せつの機会を増やせるよう取り組んでいます。	「排泄チェック表」とシステム内に記録し、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間もトイレでの排泄を基本としているが、安眠にも配慮し個別に対応している。介助方法や排泄用品について検討が必要な場合は、管理者や介護支援専門員が職員の意見を集約して「申し送り事項」ファイル等で共有し、現状に即した支援につなげている。待機場所・声掛けの方法等、プライバシーに配慮した支援に努めている。	

グループホーム ふれあいの家

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方も多く、薬以外の手段については、併設老健の看護職員やリハビリ職員にも相談しています。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、利用者様お一人お一人のご意向を踏まえて設定していますが、入浴日については今後の課題となります。	2～3人での入浴が可能な広さがある浴槽であるが、一人ずつゆっくり入浴できるよう支援している。週3回を基本とし、午前・午後に分けて入浴予定を立てているが、体調や気分に応じて柔軟に対応している。実施状況は、入浴チェック表とシステム内に記録している。身体状況に応じて、2人介助・シャワー浴・清拭等に対応し、併設施設の機械浴を利用することも可能である。同性介助の希望に対応し、入浴拒否にも個別の対応を工夫している。入浴剤・ゆず湯等で、入浴がより楽しめるよう支援している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化等の情報共有についてはできていますが、すべての職員が薬の作用や副作用については把握できていないため、今後の課題となります。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで以上に支援していきたいと感じていますが、感染対策など職員の行う業務が増加している状況のため、対応策を検討しています。		

グループホーム ふれあいの家

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策に留意しながら、外出の機会を模索しています。	コロナ禍のため外出を休止しているが、玄関前スペースでの外気浴や施設敷地内の散歩等、戸外で過ごす機会作りを努めている。感染状況を勘案しながら、ドライブから外出支援を再開できるよう検討している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1回程度の頻度で施設内の自動販売機でお好きなジュースを購入していただく機会を設けています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望に沿い、行える方には行っていただいています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや飾りつけの高さを工夫し、利用者様が安心できる空間作りを行っています。	玄関ロビーを挟んでユニット間が廊下でつながり、自由に行き来ができ、生活空間が広くとられている。廊下の適所にソファが置かれ、玄関ロビーにソファセットを設置し、長い廊下を歩行したり思い思いの場所で過ごせる環境である。廊下の掲示ボードに、利用者と一緒に制作した季節感のある制作物を掲示している。玄関前スペースのプランターで、花や野菜を育て季節感を取り入れている。利用者が米ときぎ・汁物調理・洗濯物たたみ等に参加できるよう支援し、生活感を取り入れている。職員は居心地の良い雰囲気づくりに努め、日課としての体操、集団・個別レクリエーション等、共用空間で活動的に過ごせるよう取り組んでいる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース、居室等を使い分けて、利用者様が安心できる空間づくりを行っています。		

グループホーム ふれあいの家

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものをお持ち込みいただけるよう支援しております。	居室は広さがあり、大きなガラス戸からの採光と通気がよく、洗面台・箆筒・ベッド等が備え付けられている。ソファ・テレビ・机・椅子等の使い慣れた家具や、家族の写真・ぬいぐるみ・鉢植え等馴染みのものが持ち込まれている。居室の扉に表札や目印の花をつけ、部屋間違いがないよう工夫している。居室の掃除やリネン交換、衣替えや箆筒の衣類の整理等を、利用者と一緒にできるよう職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字を大きくしたり、掲示物を利用したりしながら工夫して行っています。		